

カメラを片手に

額田周辺 まち歩き



4月22日(水)

やまなみプラザ



参考：東大阪市文化財ガイドブック



### たいしばし

長尾谷から流れ下る谷川に長さ2 m程の小さな石橋がかかっている。表面には文久4年（1864）6月に額田村の米屋礒右衛門が世話人でかけたことを刻んでいる。

この細い道が当時では重要な道であったのであろう。



### 上行院

本因山と号する日蓮宗の寺院。江戸時代の寛永のころは、京都東山岸楽院の末寺であったが、万治2年（1659）に日興上人を開山として、西山本門寺の末寺となり、本尊は、漆塗の金泥で刻んだ法華曼荼羅で「板御本尊」という珍しいも



### 南之辻地藏

旧額田村には四つ辻地藏がある。枚岡東小学校の北西方角に南之辻地藏がある。全高80 cmで蓮華座の上に立ち、舟形光背を背に地藏菩薩像を半肉彫している。像脇に「享保廿年（1735）卯七月廿四日」とあり、光背側面に「南町施主久左衛門」と刻まれている。お堂前には「愛宕山権現守護所」と刻まれた正徳五年（1715）の燈籠がある。



### 上之辻地蔵

南之辻地蔵から北へ行った三叉路に祀られているのが上之辻地蔵。全高 82 c m の丸彫りの地蔵をはじめ、他に半彫りの地蔵尊など 4 体の石仏が安置されている。



### 政家住宅

明治中期の建物で居室部分の縁側や廊下の発展ザシキに付書院を設けるなど、新しい手法が随所にみられる。例えば一つの室がいく通りかの使い方をするのは、今では当たり前だが当時では新しかった。居室の使い方法が変化してくる時代のおよび、その方式を汁谷重要な意味をもつ建物といえる。市の民俗文化財に指定されている。



### 小楠公首塚と山ノ上神社跡

小楠公（楠正行）の首を埋めたと伝えられる石の厨子があることから大正 13（1924）に地元の人たちによって顕彰碑が建てられた。また山ノ上神社は石の社標が残っているだけで、明治 5 年枚岡神社に合祀された。



## 重願寺

山号は、本誓山浄土宗、本尊は阿弥陀如来坐像。この寺は大阪市谷町8丁目に豊臣秀吉の本願により文禄年間に（1592～95）岸誉上人が開基し、後昭和37年にこの地へ移転した。本尊の木造阿弥陀如来坐像と多宝塔に祀れる聖観音立像は、市の文化財に指定されている。

この地は、もともと真言宗不動寺の跡で額田首（ぬかたのおびと）の流れをもつ高内皆人（みなうど）の創建した寺と伝わる。慈雲尊者も41歳の時、ここで書物を書き上げている。境内に「天正年のころ、高内正定、前関白 近衛前久公 枚岡神社を参拝した際 道案内したとの意味の刻字あり。尊者の御筆 近衛前久公の和歌「枯のこる長尾の岡のすすきの原霜もしらけていとどさむけき」と刻んだ石碑がある。



重願寺の洛陽

## 座禅する慈雲尊者



長栄寺と修業する慈雲尊者・長尾の滝の上